



チーム医療のミーティング

チーム医療で、飼い主さんを笑顔にしたいのです」  
では、チーム医療の際に気をつけていることは何だろうか。  
「実は他の一般企業と同じで、ホウ・レン・ソウです。報告・連絡・相談を常にチーム内でやりあうことなのです。そうすることで、医療

内容もより充実したものに  
なり、知識や技術も向上するのです」  
伊藤さんの友人である、  
埼玉県幸手市・大橋動物病院の大橋秀樹院長は伊藤さんの人柄を明るく親分肌の性格で、人をまとめていく力には感心していると語る。  
リーダーシップを発揮し、  
チーム医療の要を担う伊藤さん。苦しいインターンの経験から彼が大切にしているのは「礼儀」だと学ぶ。  
「獣医師とはお金をもらえらうえに、『ありがとう』とまで言っていただけの職業です。だからこそ、礼儀を大事にしたい。そしてその気持ちをストックにも共有してほしいのです」  
20年以上のあいだ地域密

着とチーム医療に力を入れ、  
多くの動物の命を救ってきた伊藤動物病院。次に目指す未来は、どのようなものなのか。  
「地域の他の病院と切磋琢磨しあいながら、専門医を増やし、より高度なチーム医療を充実させていきたいです。また現在も年中無休ですが、ゆくゆくは24時間病院を開けられるようにしたいと考えています。何時でも急病をフォローできる体制を整えられれば、飼い主さん、はより安心してペットを飼えるのではないのでしょうか」  
伊藤動物病院の地域密着型のチーム医療は、地域の人に支え合えられ、より高度なものになっていく。

## 地元密着型のチーム医療が 地域の人々との信頼を築き 笑顔を生む



Doctor  
伊藤洋一

Ito Animal Hospital  
伊藤動物病院

### 飼い主の目線を意識した 医療サービスを提供

「来院した飼い主さんを幸せにする医療に取り組みたい。そして地元で愛される病院にしたい」そのために飼い主や来院者に対する心遣いには、特に気をつけていると伊藤動物病院の伊藤洋一院長は語る。

動物病院の待合室にはおしぼり機とコーヒーマーカが設置され無料でサービスを提供、自由に利用できる。

また、待合室にモニターが設置され、ペットのことをより理解してもらおうと、随時ペットの病気や健康に関する最新情報を流している。

忙しい時でも、誰かが必

ず待合室に気を配り、来院者には必ず3分以内に声をかけるなど、丁寧な案内や対応を心がけており、飼い主や来院者を不安にさせないための配慮を忘れない。

そんな待合室では飼い主同士がペットの情報交換や世間話をしていたりと、いつもフレンドリーな雰囲気だ。

このような居心地のよさもあってか、遠方からタクシーに乗ってわざわざ診察に来る飼い主も少なくない。

中には、伊藤動物病院との出合いがきっかけで、動物看護師を目指すようになり、実際に伊藤動物病院に勤務している人もいるのだ。



飼い主から評判のいい  
コーヒーマーカのサービス

### 手厚いチーム医療が 安心を作る

最近、獣医師や動物看護師が複数人在席している病院も多く、一匹のペットに対して多人数が担当するケースも少なくはない。

伊藤動物病院では、獣医師が9名、看護師が10名勤務している。これだけの多人数を配しているのは、人間の医療と同様に、「チーム医療」でこそ可能となる医療があるからだ。

リーダーと信頼できるスタッフが集まり、手術を行う